

このたび薬事日報社から「薬学生新聞」が刊行されることになりました。薬学教育が大きく変わりつつあるこの時期に、薬学を学ぶ学生を対象とした薬学生新聞が刊行されますことは、タイミングもよく、薬学教育に携わる私どもにとりまして大きな喜びであります。

薬学を目指して学んでいる学生の方々は、すばらしい宝の山に登っているようなものです。患者さんに適切な指導をすると共に、医師や看護師さんたちにも薬の専門家としてアドバイスができる薬剤師になることを目標に教育を受けております。

6年制と4年制とに拘わらず、医療人として必要な教養を身につけ、患者さんが信頼して相談にみえるだけのコミュニケーションができ、薬学の基礎も、また医療薬学もしっかりと学び、実務実習で患者さんの気持ちを理解し、現場で医療に携わる心を、卒業研究で問題解決を図る力を、これからの学生生活で修得していきます。

来年4月からは薬学教育が大きく変わります。けれども、すべての薬科大学と薬学部は、常に在学生の教育に最も力を入れております。いま、在学している学生は全薬科大学の教員が一丸となって、立派な薬剤師となれるように教育をしております。確かに今までの4年間の教育では、そのまま資質の高い薬剤師になることは難しく、それぞれ薬剤師の資格を取ってから各個人で努力し、患者さんから信頼され、医師と看護師から頼られる薬剤師になっていくのです。4年間の教育の間に薬剤師として必須となる内容を学ぶと共



全国薬科大学長・
薬学部長会議会長
共立薬科大学学長

望月正隆

に、卒業後も生涯学習などで研修を続けられる力と意欲を、しっかり身につけていただきます。

薬学生新聞が現役の学生にとって魅力のある紙面を提供し、既に薬学を学んでいる学生が互いに励まし合いながら、日本の医療を支える薬剤師になり、また薬学研究者になるための手伝いをできるように新しい新聞であることを祈ります。今、薬学を学んでいる学生の向上心をさらに育て上げるような紙面でなければ新たに薬学生新聞を作る意義は何もありません。薬学を学ぶ心をさらに高めるような内容を期待しております。薬学を受験する高校生のための受験新聞ではなく、また、国家試験の予備校広報誌もどきでもなく、真剣に日本の医療を考える学生を育てる、または意見交換の場を提供する新聞として「薬事日報・薬学生新聞」ができ上がるものと信じて、この新聞の発行を歓迎いたします。また、この新聞を読み、1人でも多く、日本の医療をさらに真剣に考えて、行動する薬学生が増えることを期待します。

薬学を学ぶ若い学生が医療人として育つことを目標とした新企画を展開されることは、日本の薬学のオピニオンリーダーとしてこれまで歩んできた薬事日報の快挙と思っております。

薬事日報 薬学生新聞 創刊への期待

このたび薬事日報社から「薬学生新聞」が創刊されるとお伺いしました。薬学教育制度が大きな転換期に差し掛かっている現在、薬学部・薬学生の情報交流を支える場として、時宜を得たものだと期待しています。

情報交流のサポート役に

ご承知のように薬剤師養成を目的とした薬学教育は、来年度の入学生から修業年限を延長し、6年制の学部・学科で実施されることとなります。急速な進展を遂げている医薬分業、先端科学の進歩と相まって高度化する薬物療法、多様化する患者ニーズなど、医療を取り巻く環境が大きく変化しつつある中で、質の高い薬剤師の育成が、社会の強い要請となっていることに対応するものです。

6年制教育では、医療人としての教養教育及び医療薬学教育の充実が図られます。さらに、事前実習を含め病院・薬局における6カ月間の実務実習を取り入れられることになった点が、制度改正の大きな特徴と言えるでしょう。

とはいえ、6年制の教育を修めた薬剤師が誕生するのは平成24年、今から6年以上も先のことです。また、6年制卒業の人たちが免許を取得したその日から、長い経験を積まれた薬剤師と同等の仕事ができるほど、医療というのは簡単な世界ではありません。現在、薬学部には在籍されている皆さんも、今回の薬学教育改革に込められた国民の願いを十分認識し、



文部科学省
高等教育局
医学教育課課長

石野利和

日々の研鑽に励み、医療や創薬の世界に羽ばたいて、社会の期待に応えていただきたいと思います。

薬学出身者の進路は、病院・薬局といった医療の現場から創薬などの研究開発まで、非常に広範多岐にわたります。しかし広いように見えても、一つ「医薬品」というキーワードでくれば、すべての人たちが一つの環として繋がっています。

進んだ道は異なっても、社会の中で大学時代の友人や先輩・後輩に遭遇する機会は多々あると思います。大学生活を通じて培った交友関係は、生涯の宝物になります。大学では薬学の知識・技能を身につけることが何より重要ですが、一方でクラブ活動やサークル活動を通じて様々な体験をし、良い友人を得るのも大切です。

「薬事日報・薬学生新聞」がニュートラルな立場から、大学や学生に向けて数多くの情報を先取的に発信すると同時に、薬学生のキャンパスライフを応援していただけることを願っております。

患者様から信頼され、
必要とされる薬剤師を目指して

関東・近畿・中国・四国地区で
保険薬局を展開



ファーマシーが追求するのは地域社会に必要とされる薬局。

原点は必要とされること。そのために、患者様に信頼され、求められる薬剤師の育成に取り組んでいます。



保険調剤薬局
株式会社 ファーマシー

本社所在地：〒720-0825 広島県福山市沖野上町4-23-27 TEL 084-931-0160
東京オフィス：〒153-0062 東京都目黒区三田1-12-24 MT3ビル 3F
採用担当連絡先：採用フリーダイヤル 0120-314-868 人事課 井上
ホームページ：http://www.pharmacy-net.co.jp

